

未来をつくるのは私たち

村上市立荒川中学校3年 笠原 菜央

皆さんは、税について、どう考えていますか。私は、中学校で教わるまでは税についてあまり知らず、「税は何のためにあるのだろう」「なぜ税をはらわなければならないのだろう」とばかり思っていました。しかし、ある事をきっかけとして、私の考えは変わりました。

ある日、母が病院から帰ってくると、母に病気があることが分かりました。私の母は、私が小さい頃から、女手一つで育ててくれたので体へのふたんが大きく、病気にかかりやすかったのかもしれませんが。いつも、朝から晩まで一生懸命働き、家に帰れば家の仕事もしっかりとこなしていた母。つかれていて、私の事まで手がとどかないと言いながらも毎日のご飯や学校の送迎などをしていてくれました。お金によゆうがない中、私のために必要なものをそろえてくれていました。私は、そんな母のことが大好きだったので、病気があると知った時は、ショックでとてもつらく、母も少し涙ぐんでいました。その後、母は入院することになりました。そこで私が気になったのは、お金です。私は当時、税についてよく知らなかったのですが、退院後、母はお金に苦しめられ、つらい思いをするのではないかと、とても心配でした。

二週間後、母はぶじに回復し、退院することができました。病院の帰りの車の中で、母は私にこんなことを言いました。

「菜央がまだ中学生で良かった。」

と。母は私に、入院するお金などは、税金に支えてもらっていることを教えてくれました。私たちは、税金に助けられたのです。

私は、このことをきっかけとして、税について、色々調べるようになりました。税金がないと、私たちが普通に学校にかよえないことや、いつも飲んでいる水が飲めなくなるなど色々なことが分かりました。税金という制度があるから、今私たちはこうして暮らしやすい生活ができているのだと思います。税金によって、たくさんの人命がすくわれていたり、色々な場面で守られているのは確かです。今、少子高齢化が進み、社会保障の費用が増え、その費用を負担する働き手が減ってきている中、私たちは、自分にどんなことができるのか考えなければいけません。未来をつくるのは私たちです。しっかり税金をはらい、社会をより良くするための一人だということにほこりをもてる大人になるため、今は自分のできることをしっかりとしていきたいと思います。